



南経視第 457号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

南木曾町長 宮川正光



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼の標記については、別紙のとおり提出
します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県 南木曾町

公共交通機関が未整備な地方にあつては、道路整備が住民の最も期待するところであり、事業投資の判断にあつては、画一的とならない
様地方の実情など、地域の特性やニーズに合わせた規格や構造に配慮し、スピーディーな事業展開を要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県 南木曽町

○現状

当町の幹線道路網は、国道19号、国道256号、主要地方道中津川南木曽線・中津川山口線・飯田南木曽線、一般県道南木曽停車場線を幹線とし、町道・農林道を支線として構成されています。

妻籠・馬籠・昼神を結ぶ国道256号、主要地方道中津川南木曽線は、観光道路や産業経済活動の動脈として重要な役割が強まっており、特に国道256号は清内路トンネルの開通に伴い、観光バスなど大型車両の通行が多くなっています。主要地方道中津川山口線については、国道19号のバイパス的な利用が多く、交通量が著しく増加しています。

町道は、町民生活に密着した1級・2級町道を中心に毎年改良を進めています。集落の散在や地形条件のため建設コストが増大し、思うようにいかないのが現状です。

○課題

国道256号の清内路トンネルから漆畑間や、主要地方道などの県道は未改良か所が多く、交通量に対応した道路改良が求められています。また、中央自動車道神坂スマートインターチェンジの整備促進が望まれています。

大型車両を含む交通量の増大に対応し得る道路整備や安全性の確保に努めるとともに、住民生活の向上と地域産業の活性化が図られるような長期的視点に立った道路網整備計画を樹立し、計画的に整備していく必要があります。また、国道19号の代替生活路線としての木曽川右岸道路整備や広域幹線道路の県営・県代行による整備促進が求められています。

②－２ 地域の目指すべき将来像

長野県 南木曾町

交通量の増加と車両の大型化に対応し得る道路整備により、安全で円滑な運行の確保ができるよう、国道・県道・町道の計画的整備を図り、道路交通体系の確立を目指していただきたい。特に、災害に強い道路と代替機能が発揮できる道路ネットワークの構築を強く要望します。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	観光振興への寄与 国道256号線の改良 交通安全対策、防災対策 木曽川右岸道路の整備	当町の基幹産業は観光であり「妻籠宿」をはじめ、町内観光地と昼神温泉、飛騨高山方面など広域的な観光地との交流の基礎はアクセス道路であり、安心・安全に通行できる道路整備を効率的かつ効果的に推進する事により、観光地へのアクセスの向上が図られ、観光客の増加につながる。 国道19号は、別名「木曽高速」と言われて久しく、一日当たり2万台を超える車両が通行しています。一旦交通事故が発生すると、3～5時間通行止めとなり、緊急車両の走行など、地域住民の生活への不安と、事故に伴う多額の損失を生じています。 また、豪雨によるゲート閉鎖などの規制により、人工透析患者の搬送のために消防車両の先導で主要地方道を大きく迂回し命を繋いでいる状況である。右岸道路を整備することにより、地域住民の不安を解消し安心・安全が図られる。	